



～第4回法人合同研修報告（気になる子とその保護者 Part II）～

島田福祉会では常に職員の学習意欲と機会を数多く保障し、職員の資質向上に努めてまいりましたが、更に法人全体での職員教育の充実を図るため、昨年度より「法人合同研修」を開始いたしました。11月21日に行われた第4回目は、3回目引き続き、特別支援教育の分野でご活躍の橋場隆先生をお招きいたしました。

2015年12月 増刊第11号

社会福祉法人 島田福祉会

発行人：中山伸

法人事務所 大田区大森北 3-3-5

電話・FAX 3763-1728・3763-1729

http://www5.famille.ne.jp/~shfk136/

E-Mail:bigforest1-3-6@neo.famille.ne.jp

前回、締めくくりの言葉として"To be continued"を残してくださった橋場先生に、2回連続でご指導をいただくことができました。前回はご紹介の通り、橋場先生は筑波大学「心理・発達」教育相談室 臨床発達心理士スーパーバイザーとして、教育現場、保育現場、障害児療育現場等において相談・指導業務に従事される傍ら、『発達障がいの幼児へのかかわり』などの著作からも特別支援教育への理解の浸透を進めていらっしゃいます。前回の研修で法人内に新たなファン層が広がり、開始を心待ちにしている表情があちこちで見られました。前回からの継続の事例検討に加えて、大人への対応も内容に組み込んでいただき、大変密度の高い学習となったのですが、そのためやはり終了後には先生の個別のアドバイスを求める職員の列ができ、今回も長時間お引き留めしてしまいました。快く対応して下さいました先生に、この場で参加者一同より心からのお詫びと御礼を申し上げます。



職員の感想から（★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二）

- ★「子どものできるを親に見せる→親を安心させる（あせらせない）→親とのつながり→子どもを受け入れる準備ができる」⇒これが発達支援保育である。本日の職員会議でまさに話し合っていた内容で、親対応の確認になりました。事前ブロック、タッチしながらほめる、ほめ方で変わる、グレーなほめ方は通じない等々、実務に直接つながり、とても参考になりました。どの話しも（そうそう）と思い、思い当たる子どもや親が心に浮かんできました。親の対応はとても難しい、アプローチ計画を立てることの大切さも学びました。明日へつながる保育!がんばります。（園長・主任・副主任）
- ★北嶺町保育園の事例が自分のクラスの子に当てはまる点が多く、とても勉強になり、また、励まされた。当たり前だが子どもとその保護者の数だけ対応の仕方を変えていかなければならないので、困っている点に的確にアドバイスをいただけるのはとても心強く感じる。難しい子・親がとても増えているので、ぜひまた話を聞いてみたいと思った。（保育士）
- ★現在、配慮が必要とする子どもについて保育をしています。そのなかでやはり集団行動をする上で入っていけない時やすぐ抜けてしまう時があります。個別をした方がいいのか悩んでしまうこともありますが、橋場先生の研修を受けて「そうか、周辺の手伝いだけでも良い、ゲームに乗り切れなくても良い、一緒に同じ空間にいることが大切なんだ」と気づきました。途中、その子が楽しめることを取り入れることを忘れずにしたいと思いました。また、身体刺激にはどういうものがあるか調べてみたいと思います。（保育士）
- ★事例を通して具体的な改善策や保育のヒントを学ぶことができました。保護者との信頼関係を築くために、気になる子であってもなくても、第一に子どもとの信頼関係を築くことが大切なのだ改めて感じました。私は入社して間もないですが、子どもとの関わりをより深めていこうと思いました。また、発達障がいの知識を一から見直そうと思います。印象的だったことは、禁止よりほめられる行動に大人が切り替えてあげることが大切だということです。思わず否定的な言葉掛けになってしまいがちなので、気をつけていこうと思います。（保育士）
- ★今回も先生のお話はとてもわかりやすく、なるほどと思うことが多くありました。保護者への接し方で「子育てはして当たり前でほめられることが少ない」「相手の気持ちにより添うことが大事」など、保育士でなくても自分の周りには子育て中の人たちに接する時など、参考になりそうだなと思いました。（栄養士・調理員）
- ★問題を抱える子どもの保護者への対応方法として、「まずは保護者を安心させること」が大切なのだという言葉が印象に残りました。子どものできないところを見せつけるのではなく目標（結果）に到達するまでのプロセスを保護者に伝えていくことを大切にする、ということをお忘れずに保護者対応を行っていきけるように努めたいと思います。（保育士）
- ★支援児の保護者に対して、できないところを伝えてしまう傾向にあるけれど、そうではなく、できる姿を伝えていくことが大切と言うことが印象に残りました。そこを伝えながらも巡回などにつないでいく難しさも感じました。（看護師）
- ★障がい児対応は対応の仕方でも悪化したり、よくもなるのおはなしでしたので、大変難しいこととは思いますが、このような講習会を通して皆が考え学習し、子どもと保護者がよい方向へ向かっていけるよう園全体で取り組むのはとても良いことだと思います。（栄養士・調理員）
- ★保育士の心情として、気になる子の姿を保護者に分かってもらいたいあまりに、ありのままの姿を保護者に伝えることが後々保護者や子どものためになるとは思っていたのですが、逆にできることややっている姿を見てもらったり、伝えていくことが後に子どもの姿を保護者に受け入れてもらう土台となっていくのだということが分かり、考えを変えて行かなくてはいけないと感じました。（園長・主任・副主任）
- ★「指示」より「支持」という言葉が心に強く残っています。十人十色、幼児期は何事も発達の過程であることなので、枠にはめずに見られた方がよいと思います。個別支援は万人に当てはまることと思っています。（園長・主任・副主任）
- ★日々の保育で個別に対応し、保育士が心を痛め接している対象児が運動会では逸脱することなく過ごせた。保護者に、日常の姿が伝わらないのでは…という思いは私も持つと思った。橋場先生の「それでいいんです」という言葉が胸に響き、先生の情熱に目頭が熱くなりました。保護者の心に寄り添い、同じ方向を見て保育を進めていけたらと思いました。（保育士）
- ★橋場先生の研修は事例に基づいたものになっているため、わかりやすく的確で、すぐに実践していきけるものなので充実感があります。今後もし取り入れてもらえたらうれしいです。今回は個人面談前だったので、保護者対応も聞いてよかったです。（保育士）
- ★保護者と保育士の年齢の感じ方（「まだ3歳」「もう3歳」）が違うということを知り、保護者に寄り添うことの大変さを改めて考えさせられました。また、「ブロック」（先に止めること）が重要!やった後に「ダメだよ」は、「もっとやって」と同じという話を聞いて、普段自分が後になっているなあと感じました。やった後に「ダメ!」と言って、なかなかおらないと悩むのではなく、先手で止めていけるよう心がけたいと思います。（保育士）
- ★事例に沿った接し方、考え方はとても参考になりました。特に保護者自身の苦しみや悩みの深さというのは理解しているつもりでしたが、先生のお話を伺ってとても深く染みこんでいくようでした。目先のことばかりにとらわれず、このことを忘れないようにしていきたいと思いました。（保育士）
- ★とても興味深いお話しばかりでした。いつも起こったこと、目の前のトラブル等に対処するばかりで、自分で見通しを持った戦略的な声かけや保育には全く至ってないので、もっと勉強して狙いを持って仕事ができるといいなと思いました。（非常勤職員）